

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和2年度学校評価計画

達成度(評価)	
A	: 十分達成できている
B	: おおむね達成できている
C	: やや不十分である
D	: 不十分である

学校名	唐津市立相知小学校
-----	-----------

1 前年度 評価結果の概要  
 学力の向上は、一昨年度から「主体時・対話的で深い学び」に沿った授業改善を行い、全職員で児童司会型の授業形態について研修会を行ったり、相知小授業スタンダードとしてグループワークでの児童の考えの高め方について共通理解を図ったりして成果を上げている。読書活動については、読書の習慣がそれほど身に付いていないので、新たに家読の奨励や授業の場で図書室をもっと活用し、読書の機会を広げ、選書の幅を広げていきたい。心の教育に関わるのあいさつは、委員会や縦割り班、クラスごとのあいさつ運動により、校内では日常的にあいさつができる児童が増えてきた。また地域でもあいさつができているという声も聞くようになったので育友会や地域と連携をさらに図っていきたい。校務等の効率化については職員会議等の精選や次年度等に向けての学校行事等の早めの対策会議の開催、超過勤務等の課題を定時退勤日や19時の退勤時刻設定等で全職員での課題解決に向けた努力を行い、今後も継続していく。

2 学校教育目標  
 やる気 やさしさ えがお あふれる相知小

3 本年度の重点目標  
 ①確かな学力の育成(基礎・基本を習得しよう、思考力・判断力・表現力を身に付けよう) ②豊かな心の育成(仲間づくりをしよう、多様性を認めよう) ③健康な体づくりの育成(命を大切にしよう、外で元気よく遊ぼう)

4 重点取組内容・成果指標 中間評価 5 最終評価

(1) 共通評価項目				中間評価		最終評価		主な担当者
評価項目	重点取組内容	成果指標(数値目標)	具体的取組	進捗度(評価)	進捗状況と見通し	達成度(評価)	実施結果	
				評価	意見や提言			
●学力の向上	●全職員による共通理解と共通実践	●学力向上対策評価シートに示したマイプランの成果指標を達成した教師を80%以上にする。	・マイプランに特化した職員研修。 ・定期的なマイプランの自己評価。					
	◎自らの目標に向けて努力する気持ちを高め、行動する教育活動の推進	○課題意識をもって「めあて」から「まとめ振り返り」までを書けたと回答する児童を80%以上にする。また、教師も学力向上を意識した授業公開を1回以上行う。	・相知小授業スタンダードの策定・実施。 ・校内授業研究会、相互参観の授業見合い週間の設定。					
	○学習内容の確実な定着	○「授業の分かったことを使って自分で問題を解くことができた」と回答する児童を80%以上にする。	・授業の振り返り(適用問題など)を毎時間設定。					
	○家庭学習の習慣化	○「家庭学習時間のめやすが守れている」に「だいたいあてはまると答える保護者を75%以上にする。	・「家庭学習のびびき」の配布と説明。 ・自主学習のモデル提示 ・宿題の質の向上					
	○読書活動の推進	○「読書が好き」という児童を70%以上にする。	・読書感想文、ショート絵本、ポップなどの展示促進など図書館の環境整備の充実。 ・並行読書や調べ学習・学習活動など授業の場での図書室活用による読書機会の増加、選書の幅の拡大。					
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○児童が「友だちと協力している」、保護者が「学校は仲間づくりに取り組んでいる」の評価を80%以上にする。	・縦割りグループで清掃活動や栽培活動を行い、高学年の主体性や責任感を高める。 ・集会活動を計画的に実施し、児童に役割を与え、任せ、認める。 ・人権意識を高めるための取り組みとして、全校人権集会を年2回、なかよしタイムを年7回実施する。					
	●いじめの早期発見、早期対応体制の充実	○いじめ防止等(いじめ定義いじめの防止等の取組事実対応等)について組織的対応ができていると回答する教員を90%以上にする。	・いじめの認知・告知に対するマニュアルを作成・見直しを行う。 ・いじめが起こらないような学級の風土づくり、学級経営についての研修・会議を年間3回以上行う。					
	○基本的な生活態度の定着	○授業を集中して取り組む環境づくりとして授業前に学習の準備ができ着席して待つ児童を90%以上にする。	・学習前の準備として「か・つ・お」ができる環境づくりに努める。 ・名札着用の徹底を目指す。全校朝会等で点検し、承認・称賛していく。					
●健康・体づくり	●「運動習慣の改善や定着化」	●授業以外で運動やスポーツを行う時間が1週間で420分以上の児童を60%以上にする。	・体育委員会の児童や健康づくり部の教師を中心に校内放送などで外遊びの呼びかけをする。 ・大縄跳びや一輪車などについてのアドバイスを示した掲示物を作成し、運動の際の励みにさせる。					
	●「望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成」	○朝食をとって登校する児童を90%以上にする。	・保健だよりや給食だより、アンケートを通してバランスのとれた食事をとることや朝食をとることの大切さについて啓発を行う。					
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外勤務時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。	・職員会議等時間の短縮 ・定時退勤日(毎週金曜日)徹底 ・平日退勤時刻(19:00以内)徹底					
	○校内研修活性化による職員のスキルアップ	○OJTを中心とした教員の実践的指導力の向上を図る。	・研修会・マニュアル策定による相知小スタイルの徹底					

(2) 本年度重点的に取り組む独自評価項目				中間評価		最終評価		主な担当者
評価項目	重点取組内容	成果指標(数値目標)	具体的取組	進捗度(評価)	進捗状況と見通し	達成度(評価)	実施結果	
				評価	意見や提言			
○特別支援教育の充実	○特別支援教育体制の確立と充実	○対象児童の共通理解を図り、よりよい支援体制づくりをめざす。	・校内支援委員会を実施し、個々に合った指導対策を検討・実施する。 ・校内研修により全教職員の特別支援教育へのスキルアップを行う。					
○保護者・地域との連携	○開かれた学校づくりの強化	○児童と保護者の学校教育目標等の認知度を80%以上にする。	・学校教育目標の簡略化。 ・学校・学年・学級だよりでの児童や保護者等の声を掲載するなどの工夫。 ・学校行事、授業参観等のHPIによる発信。					

●…県共通 ○…学校独自 ◎…志を高める教育

5 総合評価・次年度への展望  
 ・  
 ・  
 ・